

土浦市手野町・田代町におけるオオフサモの分布

Distribution of Parrot feather in Teno and Tashiro area of Tsuchiura city

渡辺 理絵 (日本学術振興会特別研究員)

WATANABE Rie (JSPS Fellow)

(1) 研究目的:平成 18 年 2 月 1 日に第二次特定外来生物に指定された外来種水草にオオフサモがある。オオフサモは 1990 年はじめ頃から霞ヶ浦周辺で確認されはじめている。その繁殖力は強力で、一度繁茂すると他の自生の水草等は繁殖できないとともに、水中生物や川魚も生息できない。

栄養分の多い所では夏の時期に一斉に繁殖し、冬は緑の先端部分と茎の一部を残し枯れる。植物物の専門的な知識がない者でも容易に判別でき、とくに冬場は、オオフサモの先端と茎の緑色が農業用水路の中で目立つため、群生を確認しやすい。そこで、霞ヶ浦水系の中でのどの範囲まで、このオオフサモが群生しているのかを調査する。

(2) 調査・分析方法:平成 21 年 1 月 25 日に調査を行った。GPS を用いて、霞ヶ浦周辺の農業用水路などを調査し、オオフサモを発見次第、その場所を測地する。予想では、霞ヶ浦およびその水系を中心に距離減衰的に群生していると考えられるため、選定ポイントを決めて、そこから徐々に離れていく。

(3) 使用したデータ:ベースマップについては、ゼンリン「Z-map」を使用し、取り込んだデータは、「ArcGIS ver.9.1」において分析を行った。

(4) 結果・考察:オオフサモは、れんこんセンター北から霞ヶ浦に流入する水路で群生が確認できた。霞ヶ浦に近づくにつれ、その群生レベルは高まる。聞き取りによれば、オオフサモは霞ヶ浦から上流へ遡上するように遷移したという。下流では、水路一面がオオフサモによって占有され、通水の機能をなし得ない。群生また、その水路を起点として、北西方向へ繁茂している。田代町ではレンコン田にオオフサモが群生しており、群生レベルは低いものの、今後、慎重に観察する必要がある。今後は、オオフサモの繁殖期になるため、両地域における群生範囲はさらに拡大する可能性が高い。調査当日は、群生の確認できない手野町東部より調査を始めたため、群生している水路、その東部についての調査には十分な時間をさけなかった。



レンコン田におけるオオフサモの分布—土浦市手野町・田代町を事例に—